

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870400425
法人名	有限会社 ファミリエ
事業所名	グループホーム橙園
所在地	愛媛県八幡浜市保内町宮内 1 - 5 8 3 - 1
自己評価作成日	平成22年12月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

日々、介護理念のもと、利用者さんとの関わりを大切に努力している。
ケアカンファレンスは、1人ひとりについて細かく意見を出しあい、皆でプラン作成に努めている。
ご家族には、いつでも心配事・ご相談などあれば、職員は管理者を中心に窓口を設けている。
毎回の運営推進会議では、多数参加していただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

入居間もない頃は、しばらくの間は「家に帰りたい」というような思いが強い方もあり、その際は、職員が徒歩や車で付き添うことを繰り返し、ご本人が徐々にホームで安心して生活できるよう見守っておられる。
ご本人の希望をご家族に伝え、毎週、市外から娘さんが来られて、居室で夕食を一緒に食べる利用者がおられる。その際は「食も進み、いい顔」をされるようだ。利用者がご家族等へ年賀状を出すことを支援されたり、男性利用者からの希望で行きつけの理髪店に、毎月職員と出かける方もいる。「家に帰りたい」と言われる利用者には、時には、事業所でおにぎり弁当を作って、ご自宅まで送り、数時間をご家族と過ごせるよう支援されており、時間になったら迎えに行くようにされている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名

グループホーム 橙園

(ユニット名)

サルビア

記入者(管理者)

有馬 房子(管理者)
梶田 イチ子(介護計画作成者)

氏名

評価完了日

平成22年 12 月 20 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 個々に希望されることを介護計画に取り入れ、日程を調整しながら、その方の日常生活がその人らしく、満足していただけるよう工夫している。 (外部評価) 事業所は、開設時から理念を「心身に障害があっても私らしくあなたらしく 心豊かに 人としての尊厳を守る介護」と決め、玄関や事務所に掲げておられる。新人職員は、3ヶ月間、利用者との関わりの中で感じたことを「気付きノート」に記入するようになっていて、管理者やリーダーが返答を書く際に理念を伝えておられる。管理者は、日頃のケアの中や毎日の訓話、カンファレンス時等で理念について語っておられ、全職員で実践に努めておられる。事業所は、地域の人達と「持ちつ持たれつのお付き合い」を大切にされ、利用者が「地域の住民として生きる」ことを支えておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 年間の公民館の催し物に参加。 文化祭などには作品を出展。 地域の清掃作業へ参加。 地区の夏祭りに参加。 回覧板を通して交流が来ている。 (外部評価) 利用者は、職員と一緒に地域の行事に多く参加されていて、地域の方達との交流を楽しまれている。事業所の夏祭りは、日赤奉仕団の人達が、ボランティアで屋台を担当してくださったり、地域の方達やご家族もお手伝いをしてくださり盛大に行われた。秋には、地域の保育園の園児達が、お祭りのはっぴ姿で訪問してくれたり、小学生の訪問があった際は、一緒に歌を歌ったり、折り紙を折って交流された。又、事業所には、音楽療法等、地域のボランティアの方達の訪問もよくある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 年度始め(4月)の運営推進会議は、地区公民館を会場にして、委員さん以外の地域の方々に参加を呼びかけ、大勢の方に参加していただいている。 地区小学生(6年生)を対象に「認知症とは」と題して講演の依頼をされ、行った。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 月々の行事や職員の研修などを毎回報告し、それに対し委員の方より感想やアドバイスを頂き、意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>(外部評価) 3月の会議は「橙園5周年記念行事」として、事業所の行事や取組み、日々の暮らしぶり等「5年間の軌跡」を多くの写真を用いて展示して紹介された。地域の人達やご家族等、100名近くの参加があり、お茶会の接待は、利用者もお手伝いをされたようだ。会議は、地域の方が多く参加してくださっており、ボランティアに来てくださっている方や、介護相談員、ご家族3～4名、他の介護施設の職員の参加もある。会議では、事業所の現状や取組み、研修の報告を行い意見や感想をいただき、話し合いをされている。又、外部評価結果や目標達成計画も具体的に報告されている。ご家族からは「安心してお任せしている」と感謝の言葉が多いようだ。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 保健センター主催の勉強会などは毎回3名以上出席し、日々のサービス向上につなげている。 平成22年7月の八幡浜市の指導については、今まで実践していた事にプラスして、指導時の指示は重要として取り入れ、実践している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議と夏祭りを同日に開催した際、参加された地域包括支援センターの担当者から「橙園は、しっかりと地域と関わっておられると感じた」と感想をいただいた。市の実地指導では、介護計画作成やモニタリングの方法について、アドバイスをいただき、早速採り入れておられた。毎月、介護相談員2名の訪問があり、利用者とお話しながら要望等を聞き取ってくださっている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 玄関の出入りは自由。 過去、身体拘束を行った事はない。</p> <p>(外部評価) 利用者が玄関を出入りして事業所の周辺を散歩される様子がうかがえた。時に近所の方から、散歩中の様子を知らせてもらうこともある。気ままに出て行かれる利用者もいるが、職員がそっと付き添い「ご本人の目的」をさりげなくお聞きしてみて「帰る」というような場合は、その時々に応じ、そのままご自宅まで一緒に歩いて、家を確認してからホームに戻るような支援もされている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 月々のケアカンファレンス時、ミニ研修を行い確認しあっている。 否定的言動はしないと取り決めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 講習に参加し、必要な知識の勉強を常にしている。 現実に利用されている方の理解もでき、他の方への支援も必要になった時に備え、理解を深めるよう努力している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ご家族に納得のいくよう説明を行い、不安を残さないようにしている。 改定があれば、全員文章を説明し、渡している。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議を2ヶ月に1回、開催している。 年1回は一般公開し、多数の方に参加していただいている。この機会に、参加者から多くの意見を頂いている。	
			(外部評価) 利用者ご本人の状況は、ご家族の来訪時や電話で報告されている。医療に関わることは、看護師資格を有する職員が連絡されている。又、2ヵ月に1回「橙園だより」を発行しておられ、外出や行事、日々の様子を写真入りで伝え、職員の研修報告もされている。地元の方の利用がほとんどで、ご家族の面会も多くあり、事業所の行事は、ご家族にも案内して、毎回参加されるご家族もあるようだ。橙園5周年行事時、ご家族にアンケートを取り「一人ひとりの利用者の意向をよく聞いて介護してほしい」との意見があり「すべての職員が一致協力して利用者個々の願いを叶えてあげられるよう努力すること」を職員全員で話し合い、さらに運営推進会議でも報告された。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月、業務カンファレンス・運営委員会にて意見交換を行い、園内の連携を確認している。 リーダー・管理者は、職員個々の意見を聞く機会を柔軟にしている。	
			(外部評価) 事業所に「リハビリ」「介護計画」「安全整備」等の委員会を設置して、委員の職員を中心に積極的に意見を出し合い、事業所の取り組みについて話し合われている。職員同士でシフト等を補い合い、外部研修にも積極的に参加されている。特に「認知症介護」の研修は、経験年数の浅い職員が優先で受講できるようすすめておられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年に「自己・相互評価」を各自が行っている事で、概ね把握できている。	
13		職員を育てる仕組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 各人に応じた研修や希望する研修などは重要と捉え、参加してもらっている。また、リーダーを中心にした勉強会も月々行っている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 保健センターでの連絡協議会では、各事業所が問題とすること・学習したい事など、相互で意見交換し合って、質の向上に取り組んでいる。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前の事前面接をしっかりと行い、本人・ご家族に安心していただけるよう話し合ったり、要望を聴き、ケアする中で計画に取り入れたり、ご家族との連携の中、より安心していただける関係作りに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 当園の介護方針を伝え、理解・信頼していただく中で、ご家族のご要望にもお応えしている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) グループホームの入居希望をされ、即入居できない時は、併設のデイサービス利用の説明をしている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者さん一人ひとりの出来る事を生かし、プランに取り入れ、楽しさが広がるよう、又、自信を持って生活できるよう支援していく。自宅でされていた作業や趣味など、他者と共にしていただく。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 「家族をいつまでも忘れない」の目標を持ち、行事などにお誘いし、楽しいひと時を過ごしていただいたり、面会時などに状況・変化などお話したりするよう努めている。また、電話で話していただいたり、希望があれば一緒に食事出来る様にしている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知人・友人などの面会など、再々来ていただいたり、夏祭りや地域の行事に出かけ、触れ合う場が出来るよう支援に努めている。 (外部評価) ご本人の希望をご家族に伝え、毎週、市外から娘さんが来られて、居室で夕食を一緒に食べる利用者がおられる。その際は「食も進み、いい顔」をされるようだ。利用者をご家族等へ年賀状を出すことを支援されたり、男性利用者からの希望で行きつけの理髪店に、毎月職員と出かける方もいる。「家に帰りたい」と言われる利用者には、時には、事業所でおにぎり弁当を作って、ご自宅まで送り、数時間をご家族と過ごせるよう支援されており、時間になったら迎えに行くようにされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーション・共同作業などに誘導し、出来る事を楽しみながら他の人と触れ合い・交わるよう心がけている。出来ない人・仲間に入れない人への非難的言葉が出ないように仲介し孤立をしない支援に努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院先へのお見舞い。運営推進会議には退居された後も委員さんとして参加していただいている。 ご家族に夏祭りほかイベントにご招待し、数家族のかたに出席していただいている。 お見舞い時には、現状・今後の事について話し合う。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりの状況を把握し、本人の思いや出来る事を大切にしたプランをたてて、安心して生活できるよう支援している。自宅に帰りたいと希望する時は、可能と思える時間で付き添う。 (外部評価) 利用者の思いや意向は、日々の会話やご本人が発する言葉、行動や表情の変化から把握できるように努めておられる。入居間もない頃は、しばらくの間は「家に帰りたい」というような思いが強い方もあり、その際は、職員が徒歩や車で付き添うことを繰り返し、ご本人が徐々にホームで安心して生活できるよう見守っておられる。	この一年間事業所ではご本人の思いを大切にした支援に努められたが、職員は、利用者個々に応じた対応ができるように「もっと利用者の思いや願いに近づきたい」と思っておられる。今後さらに、意思表示が難しい利用者や思いを表すことを控えるような利用者についてもアセスメントを工夫して、さらなる利用者らしい暮らしの支援につなげていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前面談で、情報をフェイスシートに入れ、個々の生活歴を把握し、日々の生活の中で昔の話をしたり、今まで使っていたものを部屋に置いたり、利用する事でより安心した暮らしが出来よう支援している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別プランを生かし、自分が出来る事で自信を持ち楽しい生活が送れるよう支援している。 日々の介護記録を見直し、1人ひとりの把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) モニタリングは3ヶ月に1回、スタッフ全員で行っている。入院又は主治医の指示が新たにあった時は、その時点で主治医・関係者の意見も取り入れ、その都度ご家族の意見も確認している。 サービス担当者会議、ケアカンファレンスを随時行い、モニタリングした物を、それぞれ意見を出し合い、介護計画を作成し、家族にも説明し、理解して貰っている。</p> <p>(外部評価) ご家族の意見や要望は、来訪時や電話でうかがい、介護計画に採り入れておられる。又、モニタリングは、3ヵ月ごとに行っておられ、日々の介護記録から介護計画に沿った内容の記述を抜粋してモニタリングして、必要に応じて介護計画の見直しをされている。市の実地指導時「本人の思いを最優先にした介護計画の作成」について、アドバイスをいただき、採り入れておられた。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 毎日の活動記録、個別の介護記録をしていく中で、気がついたこと・変化を記入していくとともに、スタッフ間で話し合い、共通理解し対応している。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 利用者さんがデイサービスの体操に参加したり、デイサービスの利用者さんがグループホームの行事に参加されたり、その時々への対応をしていく事が必要と思い取り組んでいる。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地区防災訓練など、地域行事に参加したり、ボランティアさんが来られ集いに参加し楽しんでもらったり、地域との連携の中、触れ合える場作りを支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者さんの入居前の主治医が、入居後もそのまま主治医となっている。受診の際は看護師や介護職員、家族が同行している。(家族の意向も取り入れて)医療連携担当者を中心に医療機関との関係を密にしている。 協力医療機関は開設時より現在まで、変わりなく協力していただいている。	
			(外部評価) 事業所は、歯科も含めて10か所の協力医療機関があり、利用者が以前からかかっている病院は、協力医療機関となっている。定期受診は、ご家族とも相談の上、看護師資格を有する職員が同行されており、医療機関と連携を図っておられる。外出が困難な状態時には、医師が往診に来てくださるようになっている。日々の申し送り時に、医療連携担当の看護師資格を有する職員が、利用者の状態を詳しく伝えておられる。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護師も介護職であるが、日々の申し送りは看護職員がリーダーになっている。 状態の変化のある自体があれば、看護師に報告し、主治医に指示を得て協働している。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者さんが入院された場合は、定期的に見舞い、その際、医療連携室と看護師など情報交換をしっかりと行い、いつも状況を把握するよう努めている。(病院の医療連携室とはいつでも相談が出来る関係作りをしている。)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に「重度化及び看取りに関する方針」(備え付け)を説明し、ターミナルケアを希望か否か話し合う。医療連携体制同意書に同意してもらう。現実にその状態になった時、家族・主治医・看護師と当園の看護師・介護職・栄養士などで必要に応じてカンファレンスを開催している。	
			(外部評価) 現在、ほとんどのご家族が「最期までホームで見てもらいたい」と希望されている。ご本人の希望は、入院中に確認される等、ご本人の気持ちも大切にされた支援に努めておられる。病院を退院して事業所に「ただいま」と、戻って来られた利用者もいる。職員は、事業所の内外で看取りの勉強をされており、事業所には、5~6名の看護師資格を有する職員がいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルを作成。職員に周知すると共に、消防署との連携の中で訓練を行い、実践に生かせるよう努めている。夜間帯は当直職員を1名動員している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域の消防署・消防団員との連携が密になるよう、日頃から協力体制を築いている。地区の防災訓練にも利用者さんと一緒に参加している。 (外部評価) 避難訓練は、年2回「夜間」「地震後の火事」等、想定を替えて行っておられ、利用者や地域の方も参加されている。その際に、消防署の方から、利用者を毛布で包んで引っ張ったり、毛布で担架を作る方法を教えていただいた。又、介護度が重度の利用者を優先して避難させるようアドバイスをいただいた。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 声かけするときの言葉使いや、排泄時の声かけ、関わり方に人としての尊厳ある対応が出来るよう心がけている。個人情報守秘義務を心がけている。 (外部評価) 利用者に「してあげる」気持ちを持たない、「上から目線」や「禁止的な言葉」「命令口調」の言葉かけはしないことを職員で話し合い、心がけておられる。調査訪問時、職員は、利用者の方に方言交じりのやわらかい言葉で、ゆっくりと話しかけておられた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の思いは常に把握し、自宅へ帰って畑の草引きをしてきたいなど希望があれば、同行したり、ご家族へ電話したい時など対応し、支援している。 1人ひとりとの会話を大切にしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その人らしいリズムのある生活を大切に、日々、何をして過ごしたいか話し合い、希望を取り入れながら楽しく生活できるよう支援している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 身だしなみも介護の1つとして心がけている。ご本人と一緒に選んだり、季節ごとに清潔感のある衣類を選び着用してもらいます。洗顔・整髪も見守りの中で支援しています。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事前の準備(食材切り・盛り付け)や手作り餃子を皆で作ったり、食後の片付け(食器洗い・食器拭き)を手伝っていただいている。 (外部評価) 献立は、併設デイサービスの栄養士が立て、それに沿って事業所で職員が調理をされている。利用者の要望は、事業所の「給食委員会」から栄養士に伝わり、反映されるようになっている。昼食前には、みんなで、単語や早口言葉を言って、その後に「ゴクン」と唾を飲み込む等の口腔体操をされていた。男性の利用者が代表で「いただきます」とあいさつをされ、職員も利用者の中に入って同じ食事を一緒に食べておられた。職員は「 が残ってますよ」と器に残っている料理を案内されたり「もう少し小さく切りましょうか」と声をかけて残さず食べられるように支援しておられた。お茶碗とお箸は、ご本人専用の物を使用されている。食後は、利用者それぞれが、持ち運べるだけの食器を下膳しておられる様子うかがえた。又、「利用者が調理をする日」を作り、利用者が三角巾とエプロンを着けて、手作り餃子や巻きずし、カレーライス作り等の一連にかわり、調理を楽しむことができるよう支援されている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 糖尿病のある利用者さんには味を薄め、主食の量を減らし、代わりに野菜を多く摂っていただくよう心がけている。水分には常に気を配り、不足しないよう摂取できる工夫をしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後、自力で出来ない方は声かけし、一人ひとりに応じて歯ブラシのセット、義歯の磨きなおし、歯のない方はうがいをしてもらっている。 年に1回の歯科検診も行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者さん一人ひとりの排泄時間を把握し、声かけにて誘導、また自分で行かれる方は見守り、失敗を少しでも減らすよう心がけている。(パターン把握の仕方は毎日の活動表にて、一目でわかるように記録している) (外部評価) 職員は、利用者個々の排泄パターンを把握し、声掛けをして誘導されており、日中は、ほとんどの利用者がトイレで排泄をされている。排泄チェック表には、パット等の汚染の有無も記録し、パット等を汚さないことへの支援にも心がけておられる。利用者の排泄のサインは職員で共有し、より適切なタイミングで誘導ができるよう取り組んでおられる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 日々の排便の確認をしている。水分補給や食事も細かくチェックし、便秘薬は主治医の指示に従って服用して貰っている。毎朝のデイサービスと合同の体操に参加していただく。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 声かけを工夫しながら、出来るだけ楽しんで入浴してもらえよう支援している。着替えの準備を一緒にする事で、何が必要か認識してもらえよう心がけている。 (外部評価) 入浴は、毎日午後にお湯を沸かし、利用者に希望等を聞きながら支援されている。現在は「毎日入りたい」と希望される方はいないようで、個々に週に2~3回は入っていただけるよう、声をかけておられる。個々の好みのシャンプーを使用したり、入浴後に化粧水や乳液をつける利用者もおられる。柚子湯を楽しまれたり、利用者の希望があれば入浴剤を入れることもある。ご自分で着替えの準備をされる方も複数おられる。車イスの利用者も職員が二人で介助して、浴槽で温まれるように支援されている。終末期等で入浴が難しい状態の利用者は、毎日、全身を拭いておられる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) それぞれの睡眠パターンに合わせ、安心して気持ちよく眠れるよう対応している。シーツ交換は随時、必要に応じて行い、清潔を保っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 配薬は看護師が行い、服薬は出勤者で確認し行なっている。 服用時には、利用者さんに合った飲み方を支援し、症状の変化があったときには看護師、職員に報告するようにしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食材切り・配膳の準備・盛り付け・食器拭き・掃除機かけ・洗濯物たたみなど、無理のない程度にお願いしている。 デイや違うユニットの方と一緒に体操をしたり、園内を散歩(日光浴など)、ボランティアの訪問(読み聞かせ・三味線・大正琴)を気分転換とし楽しみを支援している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 定期的に美容院へパーマ・カットに出かけたり、ご家族とドライブへ行かれる。 日常生活で足りない物があれば、自宅まで同行(保護者の許可の下)している。 親権者の方をお願いして自宅に帰る。(少しの時間)	
			(外部評価) 利用者は、職員と地域の神社や公民館等の恒例行事や催しに参加されている。春は、併設デイサービスの利用者と一緒に公園でお花見をされた。秋にコスモスを見に出かけた際には、マーケットに立ち寄り、昼食に利用者個々がお好きなお弁当を選んで買い、持っていかれた。気候が良い時期は、事業所の庭や畑に出て、草花を愛でたり、野菜の収穫を楽しまれている。現在、気候のこともあり、終末期を過ごしておられる利用者は、外気に触れるような機会は少ないが、職員は「暖かくなったら、体調に考慮して、庭に出る機会も作りたい」と話しておられた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご家族・本人の納得の元、小額ではあるがサイフの中に持ち、地域の公民館などにバザーがあれば出かけ、本人の気に入った物を買う。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族の方から電話がかかってきた場合、取次ぎの支援をし、こちらからかける際は、ご家族に事情を話したり、ご家族と本人とのコミュニケーションがうまくいくよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしているお	<p>(自己評価)</p> <p>掃除の際は換気を行い、リビングのソファはどこでも好きなところへ座ったり、動きやすいように位置づけている。四季に応じた手作りカレンダーを貼ったり、畑の花を摘んで活けたりする。</p> <p>(外部評価)</p> <p>一方のユニットの居間に他のユニットの利用者も集まり、リハビリ体操を始める様子うかがえた。居間の壁には、利用者のご家族等に出された年賀状のコピーとご家族からの年賀状が飾られていた。食堂に続いて一段高くなっている畳の間があり、掛け軸をかけ、椿の花が飾られてあった。昼食後は、居間のソファや、畳の間に腰掛けて個々にくつろいでいる様子が見られた。洗面所に、小花が飾られてあり、玄関等にも季節の花が飾られてあった。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>テレビが観たいときには自由につけていただき、気の合った利用者さん同士で話したりする時は、ソファや居間でそれぞれ過ごされている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ベット周りには、それぞれが大切にしているものなどを配置している。 椅子・テーブル・タンス・アルバム・洋服かけ・お位牌ほか、飾り物。</p> <p>(外部評価)</p> <p>調査訪問日の昼食後、居室の窓際の椅子に腰かけて、外を眺めておられる利用者やベッドに腰掛けて新聞に目を通して男性利用者の姿うかがえた。ご家族の写真や、誕生日に職員から贈られたお祝いメッセージを飾っておられる居室も見られた。職員と一緒に掃除をされる利用者もおられる。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>洗面所の手洗い場はセンサーで水が出、備え付けペーパーは自分でとって手を拭く。 台所は流し台が高い方と、低い方の二つがあり、身長に合った方が使える。</p>	